サンケイ S63. 4. 19.

おめでとう「ヌーベル文化賞」

2氏（一色、松本氏）に初の助成金

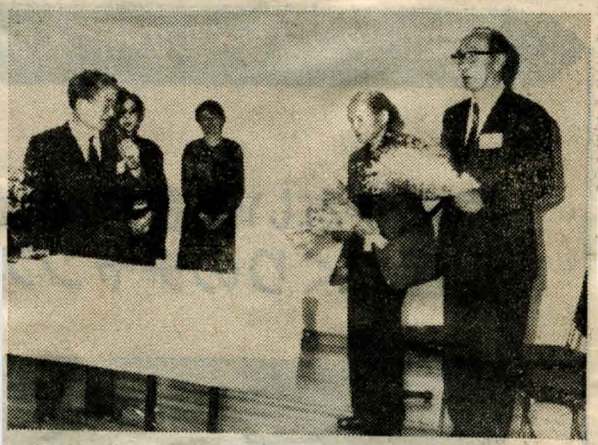
授賞式 柏市の振興会が贈る

地域で地道な活動を続けている文化人や芸術家らをバックアップしようと昨年、柏市内の画廊経営者らを中心に創設された「ヌーベル文化振興会」（砂川七郎委員長）の第一回同文化賞授賞式が十七日、同市内で行われ、郷土史研究家、一色勝正氏（七八）＝流山市東深井三〇七＝と下総人形づくりの松本節太郎氏（八四）＝柏市根戸七六ノ四＝の二人に賞状と奨励金各二十万円などが贈られた。

同文化振興会は柏市花野井で画廊「ヌーベル」を経営する鈴木昇さん（三九）が提唱、昨年一月に創設された。同画廊に展示された絵画の年間売り上げの中から、画廊と画家が各五％を拠出。地元の作家や画家らで構成する審査委員会が、東葛地区の美術、文学、音楽、書道などの分野で功績のあった個人、団体を選び、二十万円―五十万円の奨励金を贈るもの。民間の団体がこうした形で、奨励金制度を設けるのは全国的にもユニークな試み。

初の授賞式はJR柏駅東口の京北ホールで開かれ、関係者約五十人が参加。砲川審査委員長が「一色氏は二十年間、自転車で地域を走り回り、金石文や石像の研究を続け、郷土史の編さんなどに大きな貢献をした。松本氏は戦後間もなくから粘土を焼き、彩色した独自の下総首人形や張り子の動物などの玩具を作っているが、そのどれもが個性に満ち独創的」と選考理由を説明。

一色、松本両氏に賞状と記念品、奨励金が贈られた後、一色氏が受賞者を代表し「好きでやっているうちに十五年以上を費やしてしまった。松本氏に比べれば私はまだ駆け出し。受賞は死ぬまでやれという激励だと思い、これからも頑張りたい」と謝辞を述べた。



初の受賞者に選ばれ、壇上で砂川委員長に紹介される一色氏㊨と松本氏㊧＝柏市・京北ホールで